

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R3 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県	全国	県	全国
	63.8	50.0	59.4	46.0
	(1.04)	(0.89)	(0.95)	(0.88)
R8 正答率の全国比		0.82		0.82

◎ 5 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、6 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段（ ）は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 8 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査】 <国語>・基礎的な漢字の定着や、自分の思い・経験を表現する力は身につけている。 - 一方で、提示された条件や根拠を文章に組み込む力、文脈や目的に応じた表現の工夫に対する理解に課題がみられる。 <算数>・単元ごとの計算パターンが明確な問題については良好な理解を示している。 - 一方で、表やグラフからの根拠の読み取り、理由や解き方を説明する記述問題、および「割合」の概念処理に課題がみられる。 【児童意識調査】 「学校に行くのは楽しい」「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え工夫している」という質問に対し、肯定的な回答が 100%であった。 - 一方で、休業日（土日）の家庭学習時間について、「1 時間より少ない」または「まったくしない」と回答した児童が約 70%を占めており、休日の学習習慣の定着に課題がある。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 毎時間の終わりに「ふりかえり」の時間を確実に確保する。学んだことや友達の優れた考え、発展的な課題等を言語化・共有させることで、確実な定着を図る。 - 国語では、「根拠や条件を指定した短文作成」や「モデル文章を活用した構成工夫の可視化・比較」等の学習活動を日常的に取り入れる。 - 算数では、児童の理解度に応じた学習内容や問題量の選択制を取り入れるとともに、誤答分析に基づいたつまづき解消の指導を授業内に組み込む。
--

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 朝の会や帰りの会等を活用し、「全員発表・全員アウトプット」の機会を日常的に設定する。 - 読書活動を推奨し、文章に対する親しみと読解力の基礎となる読書習慣を身に付けさせる。 - 休日の家庭学習において、「解き方のコツや理由を文章で解説する問題」を宿題として設定し、表現力・思考力の定着と学習習慣の定着を図る。
--